

九州大学経営協議会議事録

日 時：令和4年1月21日（金）13：00～13：45

場 所：web会議により開催

出席者：28名中26名出席

【審議事項等】

- 1 第4期中期目標（原案）・中期計画（案）について
第4期中期目標（原案）・中期計画（案）について説明があり、審議の結果、これを議決した。
- 2 国立大学法人九州大学業務方法書の改正について
国立大学法人九州大学業務方法書の改正について説明があり、審議の結果、これを議決した。
- 3 令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果について
令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。
- 4 財務レポートについて
財務レポート2021の発行について報告があった。
- 5 九州大学ビジョン2030について
九州大学ビジョン2030及び国際卓越研究大学（仮称）制度について説明があった後、以下のような意見交換があった。
 - ・福岡県では九州大学及び関係の皆様方と協力し、九州大学学術研究都市のまちづくりや水素、有機EL、バイオテクノロジー、風力発電といった様々な産学官の連携プロジェクトに取り組んでいる。福岡県の振興、発展にとって、九州大学の持つ「総合知」は大変大きな役割を果たし重要なものであると認識している。福岡県としては、今後、九州大学との連携をより強固なものとし、地域の発展、振興に取り組んでいきたい。
→ビジョン2030の実現には、自治体のご協力が不可欠であり、引き続き、福岡県、福岡市と連携して取組を進めていきたい。
 - ・産業界ではIT人材の不足が大きな問題となっている。50年前、各国公立大学に情報工学が作られた時の定員が4～50人で、今でも定員は100人程度だが、海外をみると、トロント大学では情報工学の定員は2000人と言われており、日本の国立大学の情報工学の定員は、海外大学と比較すると圧倒的に少ない。ぜひ、IT人材の輩出人数を早急に増やしていただきたい。
→リカレント教育、社会人教育等いくつかの手立てを総合的に用いることで、少しでも産業界のニーズにお応えできるよう努めたい。
 - ・国際卓越研究大学（仮称）制度に申請するには、更なる改革が必要であるということであったが、どのような改革を行おうと考えているのか、また、申請することによるマイナス面についても検討されているのか。
→国立大学法人化後、経営協議会、教育研究評議会、総長選考会議の3つ会議体で大学の大きなところを動かしてきたが、この仕組みが大きく変わることになる。

新しく置くこととなる合議体が、総長、プロボスト、CFO等を指名する形になり、これまでの大学の文化からすると大きな変更となるため、構成員に対してどのような影響を与えるのかということ等を慎重に考えなければならない。

- ・指定国立大学法人の指定書の中に、多様性の確保が進んでいないので一層の強化が求められるという記述があったが、今回紹介のあった木製のバリアフリー歩道は視覚障がい者への音による情報提供を可能にしている取組であり、九州木材工業株式会社との共同開発により実用化された事例である。この会社は木材による厳島神社の補修等もされており、木材の防腐技術や建築技術など教育研究領域についても多様性につながるのではないかと。これらの取組について、社会実装、商品化もぜひ考えていただき、九州大学ならではの研究開発力を示していただきたい。
- ・九大広報にも男女共同参画支援室やキャンパスライフ支援センターの取組が取り上げられており、「指定国立大学法人」の指定に合わせてダイバーシティの取組がタイミングよく広報されているので感心している。研究者及び学生ひとりひとりが自分のこととして取組む研究基盤を作っていただくと、より効果が出てくると思う。
- ・次回の経営協議会は令和4年3月24日（木）に開催予定である旨の案内があった。

（ 以 上 ）